

# 一般質問



**問** 病院の医療体制の確保は重大だが  
**答** 全力で取り組む

1回目の質問  
**高橋議員** 看護師不足となった原因は。また医療スタッフ確保策、その結果の検証は。  
**長屋町長** 契約看護師の大量退職です。また医療スタッフ確保には、道・医大・医療コンサル等を通じて募集を行っている。看護師につ

いては少ないが内定者もいる。

**議員** 議会提案に対する町長の考えは。また施政方針の「組織の見直し」とは何か。

**町長** 議会提案策については、可能なものは適宜対応している。また病棟・外来ごとに指揮系統を強化していく。

**議員** 病院改革を議論する組織はあるのか。

**町長** 病院運営委員会で協議している。内容は予算や町民の要望等である。

**議員** 休止前の在宅訪問診療患者数は。また再開の見込みは。

**町長** 在宅訪問患者数は約80名です。また夜間救急の再開に合わせ徐々に再開したい。

**議員** 平成21年策定の国保病院改革案では、民間移譲・指定管理者制度を検討するとなっていたが。

**町長** 滝上町では医療の民間移譲等は無理がある。

## 2回目の質問

**議員** 例え今、看護師数を確保したとしても、その原因を分析し改善しなければ同じ事が起きるのではないか。

**町長** まずは医療スタッフ数の確保に全力で当たる。それと並行して組織の改善を図る。

**議員** 病院改善策を実行するのなら、その期日を示すべきではないか。

**町長** 時期の明言は難しい。

**議員** 会議の時間、その提案内容は。

**二富事務長** 会議は1.5時間前後で、内容は予算決算が主です。今年3月の会議では看護師確保についても検討した。

**議員** 訪問診療再開まで交通費を補助しては。

**町長** 現在車いす利用患者が6名いる。今後は病院による送迎を検討したい。

**議員** 医療高齢者福祉の計画書では、在宅診療支援・一般病棟54床維持が謳われている。町長の後援会便りでは、病床数を見直すとなっているが。

**町長** 現在の病床利用者数は約40名前後である。病院経営を考えると、これを基準と考えるても良いのではないか。

## △高橋議員▽

1.5時間程度の会議で実りある意見が出たのか。またいろいろな意見を言える雰囲気を作り出せたのか。

現在の病院経営を考えると、委員さんには申し訳ないが集中的に審議してもらいたい。そして今後病院が良くなるような対策を立ててもらいたい。

△長屋町長▽  
 運営委員会の時間・回数共に足りないと思う。また自由に意見を言える雰囲気も作れていなかった。

私を含め多くの人が情報を共有し、病院経営を行っていききたい。そのためにも定期以外に運営委員会を開催して町民の意向を取り入れていきたい。また病院は今後も自治体病院として運営すべきと考える。

**医療スタッフ  
 募集中!!**

# 一般質問

**問** 滝上高校募集停止後の支援策は  
**答** 早急に検討する

△高橋議員▽

現在の中学校2年生からは、卒業後高校などに進学する生徒については全員が町外の学校に進まなければならぬ。これに対し現在町が検討している支援策があったら聞きたい。合わせて北海道の補助政策についても聞きたい。

町としての恒久的な支援制度の創設について聞きたい。

町に高校が無くなった後も、高校卒業までは、町が責任を持って

通わせるといふことが必要ではないか。人づくりはまちづくり、まちづくりは人づくりからだと考える。

紋別に通う場合には定期券代を。町外に下宿の場合などは部屋代相当額を、町として恒久的な制度を作り補助することは可能だと思いがいかか。

△長屋町長▽

道の教育委員会ではこの通学区域内の他の学校に通学することになった生徒を対象にしている。保護者の経済的な負担を軽減するために募集停止後5年間通学費、或いは下宿費の補助を行う。

△奥田課長▽

通学する場合、定期券の購入代に対し月額1万円を超える額が補助される。

下宿、間借りする場合は部屋代のみが対象となり、月額1万円を

超えた額で上限額が25千円に設定されている。

△長屋町長▽

所得制限等により道の補助対象にならない場合は、町として同額を補助しなければならぬかなど考えている。早い段階で支援の内容を示して、今年度中に決定したい。

5年間北海道の補助

はあるが、その後紋別高校に通学する生徒に対して、町として通学費だとか下宿費だとかの補助について何らかの支援はしなければならぬと思っている。

恒久的な支援策につ

いて、町外の高校へ通学又は下宿ということが増えるということは明らかである。額などで、生徒保護者の負担が増えるというところは、詳細については今後検討していきたい。

△高橋議員▽

町が金銭的な支援をすることで、子どもが

他の町の高校に通いながらでも今まで以上に滝上町ということに常識してくれるのではないかと。私は滝上町にこうやって援助してもらいながら育ってきたんだと。そういう中で卒業以後に私は滝上に戻りたいと考える子どもも増えていくと思う。

財政調整基金が平成

26年度末には約22億円にまで増えている。それを子どもたちのために、町の将来のために使うべきだと考えるが。

△長屋町長▽

若い人たちが意欲をもっていろんな学校生活を送り、そして町に愛着を持つということも私としては期待するところだ。

今の意見も踏まえながら、今年度中に生徒の負担のあり方、あるいは町の補助の内容について検討していきたい。

△高橋議員▽

職業科や専門学校など一番多くの選択肢があるのは札幌市だ。町として子どもたちの寮を札幌市の便の良いところに設けることも必要だということも私は考えている。そういうことも検討してもらいたい。

△長屋町長▽

一つの理想的なアイデアということを受け止めたい。

基本的に募集停止後の子どもたちが通学する学区でいうと紋別高校になるので、それが一つの基本だと捉えている。